

これまでのとりくみ

学校教育目標 『自らの思いを伝えあい、共に学びあい、人生や社会に活用できる子ども』を育てる。

研究主題【「自分の思いを言葉にして表現で切る子ども」の育成～相手に伝わるよう文章の組み立てを考えよう～】

- ・表現する気持ちの育成：表現したいと思わせる題材の工夫、表現する場の増加、書き慣れる活動
- ・相手に伝わる文章構造の理解：教科書の学習内容の徹底、相手意識を持った表現する場の設定
- ・学習規律の徹底：学びのルール 5 か条 ・自主学习：家庭学習ばっちり週間

こどもが学ぶことのおもしろさやよさを実感できるはたらきかけを

教科の結果より

成果(強み) 表現する力の基礎・基本については、十分定着している。

(国語)・話し言葉と書き言葉との違いに気づくこと

- ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと
- ・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること

(算数)・数量の関係を、□を用いた式に表すこと

- ・計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えや式や言葉を用いて記述すること
- ・角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述すること

課題 学んだことや条件を複合的に使って活用して考えるおもしろさを！

(国語)・目的や意図を考えなら、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討すること

- ・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること

(算数)・球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉えながら、立方体の体積の求め方を式に表すこと

- ・道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること

全国学力・学習状況調査の結果より

児童・生徒質問紙より

成果(強み) 他者を大切にすることができる。

- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思っている児童が多い。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている児童が多い。

自立的な学びてを

課題 自主的・主体的に学習にとりくむ楽しさを！

- ・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫するより、人に聞いてしまうことが多いようだ。
- ・もっと教科の学習(国語/算数/理科/外国語)のおもしろさを感じられていない児童が多いようだ。

これからとりくみ

成果(強み)を伸ばすために

- ★上記の「これまでのとりくみ」を継続しながら、どの教科においても引き続き「できた」という達成感が持てるような授業づくり(3つのしん「安心」「確信」「自信」を提供する授業)
- ★根拠と考えを明確にした伝え合う活動(図書館やChromebookの活用)
- ★さらに自分の考えや提案を発表する場の設定(スピーチ、ブックトーク等)

さらに課題を克服するために

- ★校区の豊かな自然や文化をいかした探究学習の充実を図る。
教科横断的な学習も含む。
- ★自主性を育むことを目的とした保護者との連携をとる。
- ★非認知能力を観点に潜在的なカリキュラムを整備する。

探究と非認知能力を